

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応 募 者 に 関 す る 情 報

記入日： 2012 年 11 月 29 日

応 募 者 情 報	
応 募 団体名	<p>(フリガナ) トウカイエコフェスタジッコウイインカイ</p> <p style="text-align: center;">東海エコフェスタ実行委員会</p> <p>(団体名)</p> <p><small>※協働プロジェクトでの応募の場合は、代表団体名以下プロジェクトに参加している 主な団体名をご記入下さい。</small></p>
応 募 担当者 連絡先	<p>団体名： 株式会社流行発信</p> <p>〒460-8461</p> <p>所在地： 愛知県名古屋市中区新栄一丁目6番15号</p> <p>部署名： 事業開発部</p> <p>役職名：</p> <p>氏 名： 近藤 貴臣</p> <p>TEL： 052-249-5411 FAX： 052-249-5488</p> <p>E-Mail： kondo@web.co.jp</p>
ホームページ	<p>http://nrl.web.co.jp/index.html</p>

応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大 2000 字入力できます。詳細は別紙添付可）

総合出版業

PR 誌その他の発行业

単行本・ムックの編集・発行

各種イベントの企画・実施

1985 年（昭和 60 年）設立の出版社で流行発信グループの一社。『Cheek』や『Spy Master TOKAI』、『NAGOYA GIRL』などの東海 3 県向けファッション雑誌のほか、ムック本や書籍などを出版しております。またグループ会社には持株会社である流行発信ホールディングスやコミュニティ放送局の MID-FM、フリーペーパーの発行を行う名古屋リビング新聞社などがございます。

「手作り」な「エコ」を楽しむ

ちょっぴりエコで、ちょっぴりオシャレなイベント。



代表イベントの一つである『東海エコフェスタ』では、特に環境を意識し、参加者の環境への意識が変わるような取組を行っています。



第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル
カーボン・オフセット認証を取得済みの活動については、認証番号もあわせて記載下さい。 TOKAI ECO FESTA 認証番号：C02-0007
2. カーボン・オフセット活動の概要
<カーボン・オフセットの分類>
以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。 <input type="checkbox"/> 商品使用・サービスオフセット <input checked="" type="checkbox"/> 会議・イベントオフセット <input type="checkbox"/> 自己活動オフセット <input type="checkbox"/> 自己活動オフセット支援 【参考】 環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver. 1.1)」に基づく分類 http://www.jcs.go.jp/pdf/document/kijun.pdf
<カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>
カーボン・オフセットの取組内容に関して、オフセットの対象範囲をお書きください。 【例】3①-1に記載した算定範囲と同じ or 算定範囲のうち、○○、○○の部分に関してカーボン・オフセットの対象とした ・算定範囲と同じ、イベント運営者(100人)、イベント来場者(35,000人)、イベント出展者(300人)、計35,400人の移動にともなう環境負荷(電力・燃料) ・飲食ブースでの自家発電機のための燃料使用による環境負荷(燃料)
<カーボン・オフセットの取組の実施期間>
カーボン・オフセットの実施期間についてお書きください。その際、2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを実施継続していた事例または2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを開始した事例であることが応募にあたっての必要要件となりますので、御注意ください。 【例】2009年4月1日から2009年10月31日までが取組の実施期間の場合⇒応募資格外 2009年4月1日から2012年3月31日までが取組の実施期間の場合⇒応募資格有 2012年3月15日以降、現在も継続中(終了時期未定)の場合 ⇒応募資格有 2012年9月22日から2012年9月23日まで実施した。
<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>
自社HP等、カーボン・オフセットの取組をウェブに掲載されている場合は、URLを記載願います。 月刊誌(Cheek) 約10万部、イベント当日配布のパンフレット(パンフレット及び差込チラシ) 3万部、地元ラジオ番組などでの取り組み発信、イベント当日 特設ブースにおける対面での取り組み説明

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

① -1 排出量の算定方法及び算定範囲

イベント開催における、イベント運営者（100人）、イベント来場者（35,000人）、イベント出展者（300人）、計35,400人の交通移動にともなうCO2排出量

算定方法については「カーボン・オフセットの対象活動から生じるGHG排出量の算定方法ガイドライン（Ver.2.0）」を用いた。

算定式は

電車・リニモ 移動距離×燃費×排出係数×人数

車 移動距離÷燃費×単位発熱量×快出係数×人数÷実輸送人員

なお、

燃費には「自動車統計年報平成18年度分」（国土交通省）

燃料消費率（鉄道）には「鉄道統計年報」（国土交通省）、「交通関連統計資料集」（国土交通省）

電力事業者別のCO2排出係数には「電気事業者別のCO2排出係数（平成21年度実績）」（環境省・経済産業省）

エネルギー種のCO2排出係数には「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」（環境省・経済産業省）

輸送人員には「平成21年度自動車輸送統計調査年表」（国交省）

を用いた。

総量は65.3691トンである。

飲食ブースでの自家発電機による燃料使用にともなうCO2排出量

算定方法については「カーボン・オフセットの対象活動から生じるGHG排出量の算定方法ガイドライン（Ver.2.0）」を用いた。

算定式は

燃料使用料×単位発熱量×排出係数

なお、エネルギー種のCO2排出係数には「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」（環境省・経済産業省）を用いた。

総量は18.885トンである。

2種類の合計送料は67.3tCO2である。

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください（複数可）。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1. CO2排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ

その他（

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

使用したクレジット等の種類をお書きください。なお、異なるクレジットを併用した場合の各割合（%）についても記載してください。
【例】J-VER（○%）、CER等（△%）など

J-VER

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

岐阜県森林公社分収造林地間伐促進プロジェクト～ぎふ清流の国づくりプロジェクト～

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

取消、償却実施年月、もしくはその予定についてお書きください。

償却

2012年8月29日に無効化手続きを実施済

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第 1 回カーボン・オフセット大賞の 1 次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

①CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。

紙面上での情報提供

発行部数約 10 万部の月刊誌（Cheek）、3 万部発行のイベント当日会場にて配布したパンフレット（パンフレット及び差しチラシ）にて普及啓発を行いました。印刷部数は、合計で約 13 万部に及び、地域におけるカーボン・オフセットの普及活動に大きく貢献したと考えております。

また、Cheek は愛知・岐阜・三重にスポットをあてたエリア情報誌であることから、元々愛知・岐阜・三重に対して興味のある購読者に向けて地域の環境保全（カーボンオフセット）の情報が発信することができます。その為、岐阜県産 J-VER を使用し、愛知県にて行われた本イベントへの興味関心を持ってもらう可能性が一段と高く、同時に CO2 削減努力の必要性・重要性を知ってもらうには、他雑誌よりも格段に影響力が高いと考えております。

電波上での情報提供

地元ラジオ番組等での取組発信を行いました。ラジオ番組では、当日、会場内において公開放送を行い、番組内ではカーボン・オフセットを紹介することで来場者に広くカーボン・オフセットの取り組みを発信し、消費者層に広くオフセット認証ラベルを普及啓発致しました。

対人間での情報提供

当日、イベント会場において特設ブースを設置し、来場者の方に対して、対面での J-VER 制度などについての説明を行いました。当日は、多くの家族連れをはじめとした来場者に説明を行い、老若男女問わず、CO2 排出削減努力の必要性・重要性、またそれらがどのようにすれば行えるのかなど、より細かい説明を行いました。

これにより、相互的な情報発信が可能になり、来場者も気軽に質問などを行うことなどができ、また家族連れが多いことから、大人に向けてだけではなく、子供にとっても分かり易い説明を行うことで、多くの子供達にも CO2 削減努力の必要性・重要性をアピールし、理解してもらう場所が提供できたと考えております。

②CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>でも記入したとおり、月刊誌（Cheek）とイベント当日会場にて配布したパンフレット（パンフレット及び差しチラシ）、地元ラジオ番組などでの取り組み発信、イベント当日 特設ブースにおいての対面での取り組み説明を行った。

リユース食器の取り組み

イベント当日は「できる限りゴミを少なくしたい」そんな思いから徹底したゴミの分別はもちろん、飲食についても全てのフードブースにリユース食器の利用を呼びかけました。容器包装のゴミの排出削減に取り組み、参加者と共に環境に優しいイベントを作り上げております。

2. カーボン・オフセットの内容

①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。

全国にはいろいろな形のエコイベントがあり、各イベントにはいろいろな考え方やいろいろな思いが重なり合い発信されています。

その中で、本イベントは「モノを大切にしましょう」「モノを作ることもエコに繋がるんだよ」というメッセージの発信を目的にしています。本来の役割が終わってしまった商品から作り出す「手作り雑貨」や「手作り衣料」などを、『ちよっぴり「おしゃれ」で、ちよっぴり「エコ」なこと。』というテーマで取り扱うことで、関係者にエコ活動の大切さと簡単に行えるという事実の普及活動を行っています。すぐに効果が現れるようなエコ活動ではないかもしれないが、これらは誰でもすぐに行うことができる。そして、誰もが共通して大切に思えることであると、本イベントでは考えております。

普段生活している中でできるエコ活動を紹介している本イベントを通じて、生活の中で簡単に見つかる「エコ」を感じてもらい、そしてそれがきっかけとなり、「地球に優しいことは何か」を、関係者に考えてもらうのが最大の社会にもたらす波及効果であると考えております。

②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

今回カーボン・オフセットを行ったイベント「TOKAI EGO FESTA」は、今回で第4回目であり、回を増すごとに、来場者数と共に認知度も上がってきており、またすでに次回「第5回 TOKAI EGO FESTA」が2013年4月13日から2012年4月14日までの二日間開催をすることがすでに決定済みであります。今後も、回数を重ね、来場者数や認知度だけでなく、更に内容の充実したイベントにしていきたいと考えており、今後も運営者を始め、関係者にはより一層の理解と実践を求めて参ります。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

①自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献

東海エコフェスタの会場でもあり、また2005年に行われた「愛・地球博覧会」のメイン会場である「モリコロパーク」は環境に配慮した場所として認知度も高く、エコイベントが毎月行われております。その公園で行われる東海エコフェスタでのカーボンオフセットの役割は高く、これからも行われるエコイベントにもカーボンオフセットを普及し、結果、森林保全プロジェクトのクレジットの活性化に繋がれることが大切だと考えております。

②自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第1次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献

特に東海地区では環境のシンボルとしての認知度が高いモリコロパークで、多くの団体がカーボンオフセットを導入する事が重要なポイントと考えております。どんなエコイベントでも、また誰にでも気軽に出来るカーボンオフセットの活用が広がれば、地域の森林保全や省エネや自然エネルギーを活用した取り組みの普及に役立つと考えております。

③自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献

愛知県は2005年の愛・地球博、2010年のGOP10、そして再来年2014年行われるESDと、国際級の環境イベントが多数行われております。またトヨタ自動車をはじめ、製造業の街としても愛知は有名で、技術と環境に優しい街づくりを産業界が積極的に取り組むよう、我々情報を発信する側の立場からもカーボンオフセットの市場拡大に取り組んで参りたいと思います。

④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

引き続き、今後のイベント等にもご協賛企業様との連携でカーボンオフセットの導入を検討して行きたいと思っております。環境大国愛知県は世界からも「ものづくり」と「環境」で注目を集めております。その愛知県が環境先進都市として世界から更なる注目が集まるよう、愛知県・岐阜県・三重県を中心に環境に配慮した情報発信を引き続きして行きたいと思っております。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。

出展者に関して

本イベントには、まずエコ商品の販売スペースといった、エコ活動をアピールする場が設けられている。出展者には、普段そのようなエコ活動といった考えはないのかもしれないが、本イベントに出展してもらう事で、各出店者の行っている活動が、エコ活動であることの認識を行ってもらうことができる。

あるいは、エコ商品を取り扱っていなかった出展者に関しても、多くのエコ商品やエコ活動に触れてもらうことで、各自の出店物や活動にエコを取り入れたいと思ってもらえると考えている。そういった基盤がある、もしくはできていく中で、本イベントで行ったカーボン・オフセットの取組について伝えることで、各出店者の今後の取組内容に選択肢の幅をもたすことができたと考えている。

来場者に関して

普段の生活の中で、エコ活動を意識して行っていない人々にとっては、CO2削減努力というには企業など他人事であると考えている人が多い。しかし、本イベントを通じてエコ商品やエコ活動について知ってもらうことで、エコについて考える時間を増やすことができたと考えている。エコに関して考える機会が増えた中で、自分達の「移動」という身近な行動が、車から公共交通機関に移動手段を変えるなど、簡単なことで自分達にもCO2排出削減に繋がる事を知ってもらう。そして、普段の生活の中からもCO2排出削減は可能だという事実を知ったことから、自分達にもできることであるという「自分ごと化する」考えを持ってもらう。

②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。

本イベントは、今回で第4回を迎え、次回分の第5回もすでに決定している。回を増すごとに、市民からの認知度が高くなり、来場者数や出店者数などが増えている。こうした反響があるのには、出店者からも、来場者からも、本イベントが充実した内容であることを表していると考えている。本イベントの目的である『ちょっぴり「オシャレ」で、ちょっぴり「エコ」なこと。』が、出店者にも来場者にも「エコ」という考え方に対する負担が少なく、心から本イベントを楽しんでもらうきっかけづくりになっているからだと思われる。

5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
- ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。

TOKAI ECO FESTA（東海エコフェスタ）とは、「オシャレなエコ」をテーマに、愛知・長久手の『愛・地球博記念公園モリコロパーク』で行う「エコ」と「手作りアート」を融合した無料イベントです。

全国にはいろいろな形のエコイベントがあり、そこにはいろいろな考え方とさまざまな思いが重なり合い発信されています。其中で私たちは、「モノを大切にしよう」「モノを作ることもエコに繋がるんだよ」というメッセージを発信したいと思っています。

大量生産、大量消費が進む中、本来の役割が終わってしまった商品から作り出す「手作り雑貨」や「手作り衣料」などを使うこと。それはすぐに効果が現れるようなエコ活動ではないかもしれません。

でもそれは誰もがすぐに出来ること。そして誰もが共通して大事に思えることではないでしょうか。

それはちよっぴり「オシャレ」で、ちよっぴり「エコ」なこと。

会場内では、手作り雑貨やクラフトのお店のほかに、飲食のお店、エコ体験のワークショップ、ステージイベントなども行っています。モリコロパークという青い空と緑の芝生、優しい人達の笑顔の中で、いろんな人と出会い、大切な人やコト、モノについて考え、生活の中で簡単に見つかる「エコ」を感じてもらいたい。そして、それがきっかけで「地球に優しいことは何か」をいつもより少しだけ考えてくれたら、とっても嬉しく思います。

9月22日は、22日と23日の2日間、愛・地球博記念公園で開催される、「第4回 東海エコフェスタ」を紹介しました。「東海エコフェスタ」は、「オシャレなエコ」をテーマに「エコ」と「手作りアート」を融合した、無料イベントです。「モノを大切にしよう」モノを作ることもエコに繋がるんだよ」というメッセージを届けるために、本来の役割が終わってしまった商品から作り出す「手作り雑貨」や「手作り衣料」などを展示・販売しています。今回は、ハンドメイドクラフトや雑貨を扱うブースがおよそ150店出店されます。

また会場では、実際に見て、触って、体験できる、「ワークショップ」も実施されます。例えば、茶こしを使ってパステルを削り指で画用紙に自由に絵を描く「パステルアート体験」や、自然素材からできた漆喰とコテを使って段ボールなど身の回りにある材料でアルバム作る体験などなど、親子で参加できるイベントが盛りだくさんです。

たくさん遊んで、お腹が減っても大丈夫ですよ！宮城県石巻地方の「石巻焼きそば」をはじめ、「富士宮やきそば」、仙台の牛タン、広島のお好み焼きなどのご当地グルメから、たこやき、ハンバーガーなどのフードブースも、およそ20店出店されます。

また、東海エコフェスタは地球温暖化対策として「カーボン・オフセット」に取り組んでいます。「カーボン・オフセット」は、どうしてもゼロに出来ないCO2の排出量を別のところで埋め合わせるという考え方です。

東海エコフェスタには、2日間で3万5千人の方にご来場頂く予定です。

このイベントをきっかけに、皆さんがエコに取り組んで貰えばCO2は大きく減りますが、実はイベントに来て頂くだけでもCO2は発生しているんです。具体的には、電車やバス、自動車などの交通機関を使うことによるCO2の排出です。このどうしても発生してしまうCO2については、阜原森林公社の皆さんに森林を守ってもらうことによってCO2排出量を吸収してもらいます。それがカーボン・オフセットです。

ですので、皆さんには安心してこのイベントに参加してほしいと思います。ぜひ秋のモリコロパークで、いろんな人と出会い、大切な人やコト、モノについて考え、生活の中で簡単に見つかる「エコ」を感じてください。そして、「地球に優しいことは何か」をいつもより少しだけ考えるキッカケになると嬉しいです。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDFの場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園3-1-8 芝公園アネックス7階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp